

「いわき市に避難している浪江町民の健康調査支援事業」では、避難住民の健康調査を行う「健康見守り調査活動」があります。この活動にあたってきた浪江町健康保険課の方に、これまでの活動についてお話を伺いました。

場所： 日赤なみえ保健室(福島県いわき市)

開催日： 2017年3月14日

- 浪江町民は県外・県内も含めて分散して避難している上、役場や仮設住宅が中通り中心に設置されており仮設住宅の支援が優先だったため、いわき市の健康支援が行き届いていなかった。
- 日赤・看護大学がこの点を問題点としてとらえ支援していただいたことに感謝している。
- 健康見守り調査で住民の声を聞く中で、コミュニティーの再生のためのサロン活動につながって行った。いわき市に避難してきて知り合いがいない状況の中で、同じ境遇の人が集まって本音で話ができる場ができたことはとても助けになった。特に避難によって家族が分断されてストレスを抱える子育て世代のお母さんや子どもたちにとって良かったと聞いている。
- 健康見守り調査では、全国から看護職の方の派遣があり、家族の状況を知らない人だから、かえって話せることもあったと聞いている。町民誰もが知っている日赤の看護師だから安心して話せたのも大きかった。支援の必要な町民の状況を共有していただいたことは感謝している。
- 難しいことかもしれないが、ずっと同じ人が滞在して見守り続けられることができれば、もっと良かったかもしれない。
- 事前の研修を積んでから派遣していただいたので、安心してお願いできた。